

ネイチャーセンターだより

キョウジョシギ

Ruddy Turnstone

春と秋の渡りの季節にやってくる、羽の模様が色鮮やかなシギの仲間です。砂浜や小石の落ちている海岸などで多く見られます。

英名のターンストーン(Turnstone)は「石をひっくりかえす」という意味で、若干上にそったくちばしで小石をひっくり返し、その下にかくれている虫などをつかまえて食べます。

春の渡りの時には、春国岱周辺だけでなく、根室半島全域で数多く見られますので、石をひっくり返すしぐさを是非観察してみてください。



5 & 6月のイベント



お申し込み・お問い合わせは、ネイチャーセンターまで(0153-25-3047)

フィールドボランティア説明会

日時 5月28日(日) 10:00~15:00
対象 高校生以上 30名
申込 5月25日まで
概要 「風蓮湖・春国岱」で楽しみながらボランティア活動をして、風蓮湖・春国岱を見つめてみませんか?
ボランティア活動についてや、フィールドをレンジャーがご紹介いたします。特別な知識や、経験は必要ありません。どうぞお気軽にご参加ください。

エコツアーフィールドセミナー

日時 6月5日(月) 10:00~15:00
対象 観光事業者20名
申込 6月1日まで
参加費 100円/1人(保険・資料代として)
概要 ラムサール条約湿地に登録され、北海道内外からも多くの人々が訪れる、根室の代表的な場所である春国岱。
午前は、春国岱周辺をレンジャーがご案内し、午後は、風蓮湖・春国岱、根室の自然の特長などをご紹介します。

調べたい・伝えたい
守りたい
フィールドがそこに

午前か午後のみご参加をお考えの場合は、ご相談ください。

ラムサール条約湿地 石川県片野鴨池の取組み

国内には、現在33箇所のラムサール条約湿地があります。その各登録湿地がどんなところで、どんな取り組みを行っているのかはなかなかわかりません。登録湿地の1つである、石川県片野鴨池について、石川県片野鴨池観察館の(財)日本野鳥の会チーフレンジャー 田尻浩伸氏からご寄稿を頂きました。

片野鴨池ってどんなところ？

石川県加賀市にある片野鴨池は、登録面積が約10ヘクタールと日本一小さなラムサール条約湿地で、登録地には水田と池、マコモなどの抽水植物帯が含まれています。鴨池の保全の拠点である鴨池観察館は、登録地を一望できる鴨池の東岸にあります。

鴨池は、江戸時代から300年以上に渡り人と自然が共存してきました。その歴史は、1678年に鴨池の西岸に水抜き用のトンネルが掘られ、水田として使われ始めた時から始まり、1688年には伝統的な投げ網によるカモ猟、坂網猟が始まりました。

この時以降、春から夏は稲作をし、秋から冬には水田に水を溜めて池にしてガンカモ類の越冬地とし、その一部を捕獲してきました。鴨池の保全を語るときには、稲作と坂網猟を外せません。稲作により、植物が堆積して湿地が森になっていくという遷移の進行がとどめられ、坂網猟師によってガンカモ類を脅かす行為の一切が禁止されてきたのです。

こうして、現在でもガンカモ類の重要な越冬地としての鴨池が残されてきました。



片野鴨池では、どんなことが行われているの？

地元の人のからしによって守られてきた鴨池にも、時代の流れと共に変化が現れました。稲作が無くなり、カモの減少と後継者不足から坂網猟の存続が危ぶまれたりしています。鴨池観察館では、「人と自然が共にある鴨池」を目指して地元の方々と協力しながら活動しています。その一つ、カモの減少を防ぐ取り組みである「加賀の鴨米 ともえ」をご紹介します。

鴨池のカモは、20年前と比べると10分の1にまで減少しています。その原因の一つとして、餌場である水田環境の変化があげられます。1970年代から始まった基盤整備によって、稲作の機械化、効率化が図られてきました。整備の結果、冬の水田からは水が無くなり、カモが餌を食べにくくなったのです。そこで、1996年から地元の方々と協力し、冬の間水田に水を張りカモの餌場とする試みを始めました。ふゆみずたんぼの始まりです。すると、その水田ではたくさんのカモが餌を食べるようになりました。数年続けると、カモのフンや採餌の効果で除草剤や肥料の量を半分にすることができ、食味のいいお米ができるようになりました。2001年からは、購入することで鴨池の保全に参加できるブランド米として販売を開始し、毎年完売するほどの人気となっています。

鴨池では、これ以外にも豊かな自然を活用したさまざまな活動が行われています。条約への登録は、ゴールではなくスタートです。300年残されてきた鴨池が、登録後300年残っていくように活動していきたいと考えています。



イラスト：加藤明子 / Nature Art Puffin

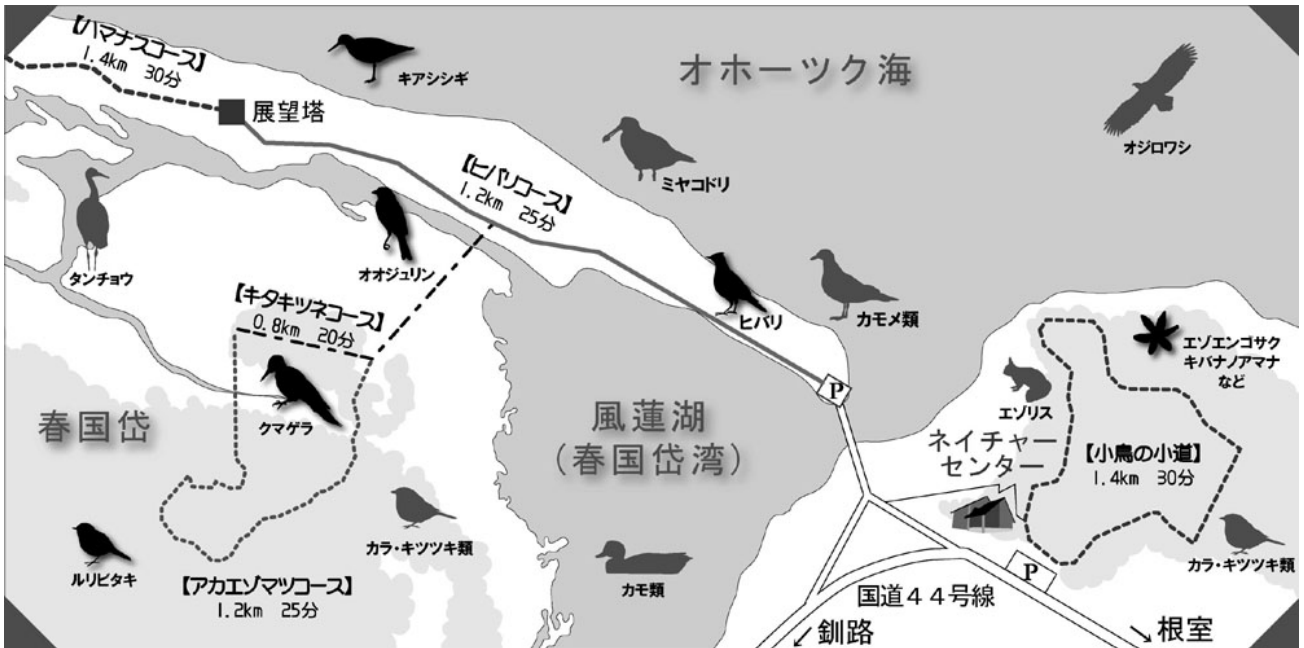
田尻レンジャーのいるところはココ
素敵なお話を聞かせてくれますよ！

加賀市鴨池観察館
〒922-0564 石川県加賀市片野子2-1
電話：0761-72-2200 FAX：0761-72-2935



自然情報 * 5月*

花が次々と咲き始め、いろいろな鳥が渡ってきます
一番気持ちよく散策できる季節がやってきました



クマゲラ

クマのように真っ黒で大きなクマゲラ。一年中春国岱の森で暮らしていますが、繁殖期の今は観察しやすい時期になっています。キョーンという声や、大きな音で木をつつく音が聞こえてくるかもしれません。



観察路がぬかるむ場所があります
十分注意してください

キアシシギ

シギやチドリの仲間も春の渡りの季節となり、春国岱にやってきます。黄色い足をしたキアシシギは数も多く、観察しやすいシギの仲間です。浜辺でエサを探してちょこちょこ走り回っています。



ルリビタキ

春国岱のコケむした森の中に、青い小鳥の音が響きます。針葉樹林は見通しがきかず、美しい姿を見ることはあまりできませんが、澄んだ美しい歌声が聞こえてきます。



ヒバリ

春国岱の橋までの散策路はヒバリコースという名前がついています。その名のとおりヒバリがたくさん暮らしています。高い空の上から、地上から、ヒバリの声が聞こえてきます。



オオジュリン

顔の黒いスズメのような外見ですが、夏にやってくる小鳥です。他にも、ノビタキやノゴマといった夏鳥たちもやってきます。



花

青いエゾエンゴサク、黄色いキバナノアマナ、白いオオバナノエンレイソウ、桃色のエゾオオサクラソウ・・・



色とりどりの花が次々と咲いて、いつ散策しても新しい花との出会いがあります。

センターでは双眼鏡の無料貸出をしています
どうぞお気軽にご利用ください



ネイチャーセンター日記

4月下旬、少し日が暮れてきて、ネイチャーセンターから帰る時間となる頃、自然学習林の横を歩いていると、割と近い場所から、カモが鳴いているような、切ない感じの音が聞こえてきました。こんなところにカモの声もないだろうと思いよく聞いてみると、「ク~ワ、ク~ワ、クワワワ」と鳴く声が、絶え間なく聞こえてきます。エゾアカガエルの鳴き声でした。切なく響くその恋歌を久しぶりに聞き、その日は、にんまりしながら帰りました。翌日、自然学習林の池に行くと、カエルの卵が確認されました。春になり、カエルの恋が実っているのを知り、なんだか少し嬉しくなり、またにんまりしました。数日後、にんまりしながら、近くの子供が「カエル捕まえた~！」とやってきました。



メール配信のお願い

郵送費削減と省資源を目指し、ネイチャーセンターだよりをメール（PDF形式）で配信しています。ご協力下さる方は下記メールアドレスまで、ご自身のアドレスをお知らせ下さい。ご協力お願い致します。（郵送ご希望の方には今後もそのまま郵送いたします。）

連絡先：nemu_nc@marimo.or.jp

団体向けプログラムのご案内

- 野外解説 (1~2時間 / 10~20名)
- 自然のお話 (25分 / 10~45名)
- 自然のクイズラリー (1時間 / 10~50名)
- タンチョウのヒミツに迫るタンチョウゲーム (0.5~2時間 / 10~20名)

事前申込みが必要です。詳細はネイチャーセンターまでお問い合わせください。などの野外ガイドは、学校団体・市民団体等にらせていただきます。

春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

住所 〒086-0074 北海道根室市東梅 103 番地
 電話 0153-25-3047 FAX 0153-25-8570
 H P http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html
 メール nemu_nc@marimo.or.jp
 5月の開館時間 9:00~17:00(9月まではこの時間で開館)
 5月の休館日 8-11・17・24・31日(8-11は、GW開館の振替)

~ 雑学クイズ ~

今月の表紙にもなっている
キョウジョシギ。
漢字で書くとどうでしょう？

京女鳴

京の女の人のようにあでやかな
鳴(しぎ)だから

杏如鳴

羽の色が杏(あんず)の如き(ご
とき)鳴(しぎ)だから

京所鳴

京のあった場所によくいた鳴
(しぎ)だから



答えは右側

しぎは鵜と書く場合もあります

